

[演題10]

食品工場で発生したノコギリヒラタムシに対する IGR とピレスロイドを混合したエアゾールの駆除効果

○菅野格朗¹⁾, 多賀輝彦²⁾, 石川善大¹⁾, 前田浩志¹⁾

1) 環境機器株式会社 2) 株式会社日本保健衛生協会

Effect of the aerosol formulation mixed IGR and pyrethroid controlling for *Oryzaephilus surinamensis* (Linnaeus) at food factory.

○Kakurou KANNO¹⁾, Teruhiko TAGA²⁾, Yoshihiro ISHIKAWA¹⁾, Kouji MAEDA¹⁾

粉を扱う食品工場においてノシメマダラメイガなどの蛾類, タバコシバンムシやヒラタコクヌストモドキなどの甲虫類は重要な駆除対象昆虫である。近年, ホソヒラタムシ科のノコギリヒラタムシやカドコブホソヒラタムシ, ヒメマキムシ科に属する微小な昆虫類の発生で困っている食品工場の相談が増えていると感じる。

しかし, 清掃以外の方法では根本的な解決にならず, 発生源も壁やダクトの中などの清掃が難しい場所に入り込んでいることもあり, 対処に苦慮しているPCOも多い。

本報告ではIGR剤(ビストリフルロン)とピレスロイド系(プロフルトリン)を混合したエアゾール剤(ファーストキルN・T)を定期的に処理した結果を報告する。

2016年6月から毎月エアゾール剤をノコギリヒラタムシが観察される壁際に処理し, フェロモントラップ(DOME trap Quick Change Trece社)を使用して, モニタリングを行った結果, 6月に218個体だった捕獲数が, 7月には97個体, 8月には44個体に減少し, 9月には35個体の捕獲となった。

清掃による減少も起因する可能性も考えられるが, 壁際で生息するノコギリヒラタムシの減少に本混合剤が有効である可能性が考えられた。